

はじめに

今日、温室効果ガスの大量排出や生態系の破壊、ごみの問題など、私たち一人ひとりの行動の積み重ねが、地球環境に大きな影響を及ぼしています。地球にあふれる美しい自然環境を未来へと引き継いでいくためにも、私たちには、人や社会、環境に配慮した消費行動「エシカル消費」の実践をはじめ、日々の行動を変革していくことが求められています。

近年の環境を取り巻く情勢に目を向けますと、平成30年12月、ポーランドで開催された、C O P 24（国連気候変動枠組条約第24回締約国会議）では、「パリ協定」の実施指針が採択され、世界は「脱炭素社会」の実現に向けて、確かな歩みを進めております。

また、世界規模での喫緊の課題として、まだ食べられるにもかかわらず廃棄される「食品ロス」が大量に発生し、環境への深刻な負荷となっていることや、生態系に及ぼす影響への懸念がクローズアップされる「プラスチックごみ問題」など、環境問題は、身近な所から地球規模のものまで非常に幅広く、ますます複雑・多様化しています。

こうした中、「環境首都」を標榜している本県では、平成29年1月に施行した、「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例（愛称：すだちくん未来の地球条例）」のもと、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と気候変動の被害を回避・軽減する「適応策」を両輪とした取組みを、県民総ぐるみで推進しています。

また、究極のクリーンエネルギー「水素」の導入・活用を図る「徳島県水素グリッド構想」や、国の目標を大きく上回る自然エネルギーの電力自給率を掲げた「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」により、低炭素社会から一歩進んだ「脱炭素社会」の実現を、ここ徳島がリードするべく、積極的な施策を展開しております。

さらに、本県独自の廃棄物の減量や適正処理の目標等を定めた「第四期徳島県廃棄物処理計画」に基づき、廃棄物の排出抑制やプラスチック容器等の再生利用の促進を図るとともに、瀬戸内海を美しい景観の形成や生物の多様性・生産性が確保された「豊かな海（里海）」とするため、「瀬戸内海の環境の保全に関する徳島県計画」及び「第8次総量削減計画」を着実に推進するなど、様々な環境問題にきめ細やかに対応するべく、関係機関の皆様と連携しながら取組みを進めております。

人と自然が調和する「持続可能な環境」を構築するためには、県民の皆様の主体的取組みが不可欠であります。本書を通じ、県民の皆様お一人お一人が環境問題への認識を大いに深められ、これまでも増して、環境の保全・創造につながる活動に取り組んでいただければ幸いです。

平成31年3月

徳島県知事